

長野静司（ながのせいじ）

1917(大正6)年～2002(平成14)年

長野静司は、中津市出身の洋画家です。生涯中津で絵を描き続けました。

彼はひたすらに「松」を描いた画家です。昭和46(1971)年、えびの高原（宮崎県）に同郷の画家熊谷九寿と共に写生旅行に出かけ、そこでまのあたりにした赤松の群れの織りなす自然の美しさに感動しました。それは生涯をかける仕事との出会いであり、彼はそれ以来「松」を題材として描き続けました。

最初期には、抽象画の作品も制作しており、中津市木村記念美術館にも、そうしたころの作品も所蔵されています。しかしながら、「松」との出会い以降は、日本全国を渡り歩き、様々な松、日本の自然を絵にしていきました。

そのうちに、彼の油絵のマチエールは洗練され、研ぎ澄まされたものとなりました。長野静司は、日本的な「松」という題材を西洋の画材である油絵具で表現することの可能性を追求した数少ない画家の一人です。

作品は、中津市役所をはじめ、多くの公共施設に収蔵されています。



長野静司写真